

- 日本型直接支払交付金を活用し、集落を挙げて農地の維持管理や担い手農家のそば・水稻栽培を支援。
- 地域内外からボランティアを募り、鳥獣害対策や高齢世帯家屋の除排雪を実施。交流人口の増加で集落を活性化。
- 担い手農家は、そばの6次産業化や生産米のブランド化を推進。新そばまつりや企業連携を通じ交流人口が拡大。

取組前

担い手の減少・集落の高齢化

- 湯原集落の世帯数は115戸（人口340人）農家戸数は46戸（H11）。1990年代後半には高齢化率が45%を超え、農家の高齢化と後継者不足が深刻化。



【湯原集落（西側からの町並み）】

取組内容

日本型直接支払交付金

- 湯原集落協定（H12～）
  - 湯原集落農業協力隊（H27～）
- （町の日本型直接支払協議会へ事務を委任し、農地や集落の維持管理活動に集中）

援農ボランティア等

- いのししバスターズ（H29～）
  - スノーバスターズ（H29～）
- （集落協定が自治会と連携し受入体制を整備）

担い手農家との連携

- 担い手への農地の集積・集約化（集落協定が農地の維持管理を実施）
- 農民そばや「芭蕉庵」と新そばまつり
- 七ヶ宿源流米ネットワーク → 6次化、ブランド化、企業連携を推進

取組後

協定・自治会・担い手の連携で集落の活性化に発展

湯原集落の農業の再興

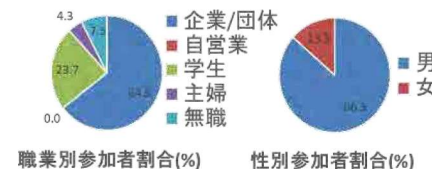
- 【協定管理農地】45ha(第1期) ⇒ 47ha(第5期)
- 【作付品目】水稻 23ha(H17) ⇒ 19ha(R元)  
そば 12ha(H17) ⇒ 23ha(R元)
- 【集落の担い手】認定農業者 3名  
(株) ゆのはら農産  
(農) ライスファーム七ヶ宿
- 【6次化の売上】1,600万円(H12) ⇒ 2,000万円(H30)  
(そば)

集落の交流人口の増加

- 新そばまつり 1,241人
  - 芭蕉庵 13,242人
  - 企業連携(農業体験) 95人
  - 援農ボランティア 37人
  - 他宿泊施設等 4,293人
- 計 (R元) 18,908人**

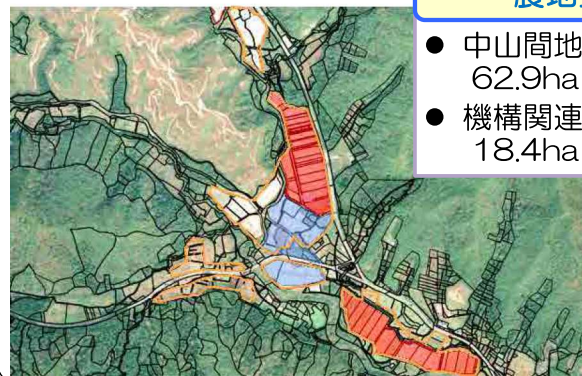
<援農ボランティアの参加構成>

- 年齢別では10、20代が5割、50代が2割強
- 職業別では企業/団体と学生で9割



いのししバスターズ

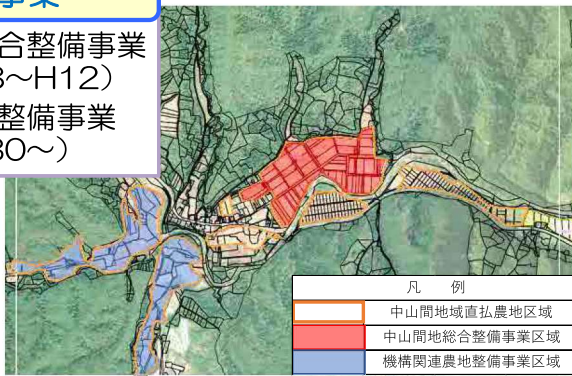
湯原集落協定の対象農地(西側)



農地整備事業

- 中山間地域総合整備事業 62.9ha (H8～H12)
- 機構関連農地整備事業 18.4ha (H30～)

対象農地(東側)



地区の特徴

山間地域

水稻・そば

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

## そば栽培の開始！ (H11)

江戸時代に仙台藩へそばを献上し、かつては「七ヶ宿そば街道」と呼ばれたそばの産地遊休農地の再生とそば街道の復活をめざし、役場職員だった担い手がそば栽培を開始

## 「やまのしずく」の誕生！ (H19)

宮城県が山間高冷地帯向けに開発した、r冷害及びいもち病に強い、県唯一の早生良質良食味品種

Tip

## 七ヶ宿源流米とは？

- 用水路に地元産の炭を置き水を浄化するとともに、ほ場に力キ殻を入れて土壌改良を図り、農薬節減等に取り組んで栽培したお米
- 大手ビールメーカーと連携し、ビールに使用されるなど企業連携による商品化も

## きっかけ

担い手の減少に伴う  
農地利用・管理への不安  
生活基盤や集落自体  
の存続への不安

### Step 1 (H12~)

#### 中山間地域等直払

- 行政区長が中心となり、生産者で話し合いを重ね、「湯原集落協定」を設立
- 交付金を活用し、集落環境の整備を実施

### Step 2 (H20)

#### 担い手ネットワークの立ち上げ

- 新品種の誕生を機に、「七ヶ宿源流米」として複数品種を生産・販売
- 学校給食での地産地消、小学校での米づくり体験授業など食農教育も推進



活動を通じ、多くの方が  
湯原集落へ集結！



#### ◆ 誰がどのように・・・？

「湯原集落協定」構成員が中心となり、人と環境と栽培にこだわり、安全で美味しいお米を消費者に届けたいという農家の思いを結集し「担い手ネットワーク」を発足

#### ◆ 誰がどのように・・・？

「湯原集落協定」の構成員が中心となり、担い手農家への農地集約化や生産拡大の方針を策定し、基盤整備の実施について合意形成



いのししバスターズ

### Step 3 (H27~)

#### 多面的機能支払

- 「湯原集落協定」構成員が中心となって集落の非農家と話し合いを進め、「湯原集落農業協力隊」を設立
- 集落の非農家がリーダーとなり、農地周りの草刈りを実施
- H29からは「農業協力隊」を中心に鳥獣害対策を強化



スノーバスターズ

### Step 5 (H30~)

#### 機構関連農地整備

- 湯原地区の未整備農地を大区画ほ場へ整備
- そばや米生産の省力化や収量の安定化を実現
- 農家レストラン(蕎麦店)を通じた高付加価値化

### Step 4 (H29~)

#### ボランティアとの交流促進

- 集落活動を継続するため、県の集落づくり事業を活用し、地区内外からのボランティアの受入体制を強化
- ・いのししバスターズ(鳥獣害対策)
- ・スノーバスターズ(雪下ろし)

今後の展望

## 将来に向けて

- ☑ 地区内にある廃校利用の宿泊施設へ食材を提供することで、農泊事業の推進に寄与
- ☑ 宿泊施設等で開催される農泊イベントと連携し、関係人口拡大と集落活性化を推進
- ☑ 農地の集積・集約化を通じてそばや米の生産性を向上し、販売や6次産業化の拡大で集客を図りながら集落の収益性を向上